

チャンスは誰にでもある。 それをつかめるかどうか。 だから、学生時代は重要です！



対学
談長
file 06



女優 熊本大学長 宮崎 美子氏 × 原田 信志

熊本大学黒髪キャンパスで学生時代を過ごした、女優の宮崎美子さん。同窓である原田学長と共に、熊本大学での学生生活を振り返っていただき、「大学で学ぶこと」について意見を交わしていただきました。

ここが故郷、大切なところ

「最近では地元TV番組で、熊本のあちこちに行つてらっしゃいますね。」

宮崎 熊本出身と言っても、行ったことがないところのほうが多くて。楽しくやっています。学長のご出身は熊本市内ですか？

原田 熊本市内です。高校も宮崎さんと同窓。その後は熊本の医学部に入り、大学院を出た後アメリカへ。帰国後は山口、京都にも行きました。

宮崎 外からご覧になると、熊本が見えてきますよね。

原田 僕は出て良かったと思っています。特に外国に行くことを学生にも勧めたい。

「外から熊本を見ると、宮崎さんにはどのように見えますか？」

宮崎 震災があつて改めて、私はやっぱりここがふるさとなんだ、大切なところなんだと再認識しました。逆に、外から見ていて、もどかしい部分もあります。観光にしても、良いものがいっぱいあるのでもっとアピールできれば。

また、私の身近では熊大出身者と出会わなかったのも、もっというんな分野に出てくればいいのにと。熊本の人は、引っぱみ思案なのでしょう。

地元での就職を考えていた学生時代

原田 なぜ法学部を選んだのですか？

宮崎 これはもう、就職のことを考えて（笑）。当時は、地方で女性で、という、就職はほとんどなかった。男女雇用機

原田 僕は今、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

宮崎 学長は文武両道ですね。私も工学部、古く寮で合宿したことがあります。怖いですよ。夜中に奇声を上げて走る男子学生がいたりして（笑）。

原田 僕は中、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

原田 僕は中、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

原田 僕は中、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

原田 僕は中、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

原田 僕は中、高、大学と軟式テニスです。大学に入ったら、憧れのヨット同好会にと思つていたのですが、先輩につかまりそのままテニスすることに（笑）。医学部の5年生で結婚するまで部活の毎日でした。早朝練習に、講義や実習の後も日が暮れるまでずっと練習。土日もなし。夏休みは、子飼のお寺で合宿でした。

「会均等法もなく、求人票も「女子も可」と書いてある会社が少しか。そうするとやっぱり、地方公務員の試験を受けるのかな、それに有利なのは法文学部の法学科かな。と。当時は法文学部という学部だったんですよ。一方で、声を出して本を読むことが好きだったので、地元の放送局を受けてみようかな、という気持ちもありました。それくらい、ふわつとした感じでした。」

原田 僕は、小さい頃から医者になりたいという気持ちがありました。医学部は難しくて自分には行けないとあきらめていました。高校では目指すものができたので、一生懸命勉強しました。それでも一回失敗しました。今、多浪生や女子学生を医学部に入れないということが問題になっていますが、当時も女子学生は少なかったですね。100人のうち10人くらい。



原田 僕は、小さい頃から医者になりたいという気持ちがありました。医学部は難しくて自分には行けないとあきらめていました。高校では目指すものができたので、一生懸命勉強しました。それでも一回失敗しました。今、多浪生や女子学生を医学部に入れないということが問題になっていますが、当時も女子学生は少なかったですね。100人のうち10人くらい。

原田 僕は、小さい頃から医者になりたいという気持ちがありました。医学部は難しくて自分には行けないとあきらめていました。高校では目指すものができたので、一生懸命勉強しました。それでも一回失敗しました。今、多浪生や女子学生を医学部に入れないということが問題になっていますが、当時も女子学生は少なかったですね。100人のうち10人くらい。

外に出ると、視点が変わる

原田 僕は、小さい頃から医者になりたいという気持ちがありました。医学部は難しくて自分には行けないとあきらめていました。高校では目指すものができたので、一生懸命勉強しました。それでも一回失敗しました。今、多浪生や女子学生を医学部に入れないということが問題になっていますが、当時も女子学生は少なかったですね。100人のうち10人くらい。

原田 僕は、小さい頃から医者になりたいという気持ちがありました。医学部は難しくて自分には行けないとあきらめていました。高校では目指すものができたので、一生懸命勉強しました。それでも一回失敗しました。今、多浪生や女子学生を医学部に入れないということが問題になっていますが、当時も女子学生は少なかったですね。100人のうち10人くらい。

方の中規模の大学としては力がある大学であると評価を受けています。

宮崎 うれしいですね。学生さんは地元の進学と県外からと、割合はどれくらいですか？

原田 熊本からが全体の約3割です。福岡からが約2割。あとは近隣からですね。

宮崎 外国人をどう受け入れるかが日本全体の課題ですね。熊大では留学生の受け入れを今までもされていたと思いますが、今後変化がありますか？

原田 国際的に開かれた大学にしないといけません。一つの手段として留学生の受け入れ。そして、日本人学生を留学させる。非常に大きな命題です。

今、正規の留学生はほとんどが大学院生。学部にはわずかしきありません。学部留学生は、夏休み期間中とか、あるいは1年間だけ日本語を勉強するような短期留学が多い。大学院生の場合は、英語で実験指導や講義、入試、インターネット面接、研究等、国際化が進んでいます。今後は学部の留学生を増やす。学部の学生をできるだけ外国に出して、世界の事情を肌で感じさせる。これらは重要です。

宮崎 学長は留学をされていますが、当時の感覚だと留学というのは本当に特別な限られた人しかできなくて。でも今もそれは変わらないんだな、という感じがしています。一時期は、日本人が海外にどんどん出て行った、経済的にそれできた、という時代もありましたけれども。今は、大学進学も大変な状況の人も少なくないですね。出ていきたく

い気持ちは皆あると思うんですよ。行ければ行きたい。でも文系の子は特に、帰ってきてからの就職とか、単位の互換性がないから卒業が遅れるとか、それも怖いことなんですよね。

原田 今の若い人は意外と、僕たちの時よりも、将来を計算しているかもしれない。僕らの時代は、先はどうでもいいみたいなところがありました。

今だーというタイミングは、必ずやってくる

—宮崎さんが、地方公務員か地元放送局かと考えていたにも関わらず、熊本を出ると決めた理由は？

宮崎 当時、ポーラテレビ小説というドラマ枠がありました。NHKのテレビ小説の裏番組で、新人を主役にした半年間のドラマです。それをやってみないか、というオファーがあったんです。お芝居とは違いますが、声を出して本を読むのが好きだったし、今しかやるチャンスがない、だったらやってみようと思ったんです。就職も遅れるし、この先どうなるんだろうという不安はありまし



復旧工事中の五高記念館について説明を聞く宮崎さんと原田学長

先生は、文化勲章をもらうような非常にすばらしい先生でした。熊大におられた頃は、傍若無人な印象でしたが（笑）。僕も、そのチャンスを逃さなかった。それまで臨床をやっていたが、その先生について、臨床をやめたんです。学生から、なぜ外科医をやめて研究の道に進んだんですかと聞かれます。理由はあくまでも、興味。あとは先生です。そこに自分の将来をかけた。そんなチャンスは誰にでもある。それをつかめるかどうかです。早いほうがいい。だから、学生時代は重要です。

先生はおいくつの時だったん、
原田 医学部で、微生物を習ったのは3年生の時。その時、初めて東北大学から来られた先生に出会いました。その研

究室に決まっていなければ、僕の人生は今とは違っていたと思います。

宮崎 私が放送局に入りたいと考えたのは、本を声に出して読むのが好きだった以外に、人から聞いたことと違って、取材に行つて自分の目で聞き取る仕事をしたいという思いがあったからなんです。考えてみると、今もそういうことを好きでやっている。本を読むという点では、女優の仕事もそうですし、それ以外にも、興味のあるところに出かけて、取材もやっているし。やりたいと思つていたことを、誰もが人生の中のどこかでやるようになっていくんじゃないかと感じています。そして、好きなことをできるということはとても幸せなことだなと思っています。

原田 学生時代からそうですか？
宮崎 そうでした。国際政治学と政治学の先生がとても素敵だな、面白いな、と思つていました。興味がそこから湧いたこと、出会いが貴重だったことを、学長のお話を聞きながら思い出しました。

それでいて、ちゃんと勉強しておくべき基礎的なことをやっていないとい

「知識をどう活かしていくのか」を教えるのが、大学。

近く続くことになるとは思いませんでした。

今は、やつてよかったと思つています。留学とは違うと思いますが、「今だ」というタイミングで絶対あると思うんです。それを逃してはいけないというか、学生さんにも逃さないで、と言いたいですね。怖いんですけどね。

原田 チャンスをうまくつかむのもその人の能力の一つなんです。僕がよく学生に言うのは、自分はこの先生についていこう、という師をまず見つけなさい。それは、熊大の先生でなくてもいい。師と言える人との出会いが人生を大きく変える。僕自身がそうでした。私の

う悲しさはあるんですけど（笑）。どこかでやり残したことは一生のうちにやるようになっていくのかも最近考えているんですね。

「ものを知る」とは、どういうことか

とても博学でクイズの女王と呼ばれている宮崎さんです。からずと学んでいらつしやるんでしょうね。

宮崎 いえいえ、もう全然（笑）。クイズ番組は娯楽ですから、これは何でしょうと聞かれて答える。それでいいんです。ただ、「よく知っていますね」と言われて、それは果たして、知っているということになるんだろうかという疑問を持っています。ものを知るとは、どういうことか、ということをやっていると考えるようになって良かつたことですね。今は簡単に何でも調べられるので知っている気になる。私もそうです。でも、それを実際に自分が見てないし、感じてない。それについて語ることができると言われると、何も知らない。ただ、表面的な、字面だけを知っているだけじゃないかと思ひます。

原田 自分で調べるのは重要。大学院時代、教授から言われたのは「論文なんて読むな」でした。実験をやつて、自分が出したデータをもとに考え、それを人に伝えなさいと言われていました。その当時、特に医学界では、アメリカに留学し、アメリカの最先端の知識を披露すれば、それにわーっと人が群がっていました。教授はそれを大変嫌いました。本当の知識とは、そういうことではない。



女優 宮崎美子

1980年 週刊朝日「篠山紀信があなたを撮ります」キャンパスの春にてデビュー。これを機にミノルタカメラTVCFに出演し、その後俳優、タレントとして活動。現在、熊本市わくわく親善大使、2019年ラグビーワールドカップ開催都市サポーター、女子ハンドボール世界選手権大会サポーター、高知県四万十大使、レント王国親善大使としても活動。NHK「いであん」、「日本人のおなまえっ!」、RKK熊本放送「週刊山崎くん」、テレビ朝日「Qさま!!」「ミラクル9」、テレビ東京「池上彰の現代史を歩く」などに出演中。熊本県出身。1982年熊本大学法文学部卒業。

アクセサリ協力：イマック TEL.03-3409-8271

大学では、社会で生きていくための「取り組み方の姿勢」を学んでほしい。

新しいことを体験して自分で考えたことが新しい知識である。間違えていても、そうでなければ身に付かない。宮崎さんがおっしゃったように、自分で見聞きすることが大切。医学だけでなく、他の分野も全てそうだと思います。

また、そういう姿勢が、今の学生に求められています。問題意識。PBL。Problem Based Learning。問題意識。問題を自分で見つけ、それに対してどういう解決をするか。そうじゃないと教育にならない。しかし、教員も学生もなかなか理解していません。

宮崎 先生方にとっては手間のかかることではないでしょうか。

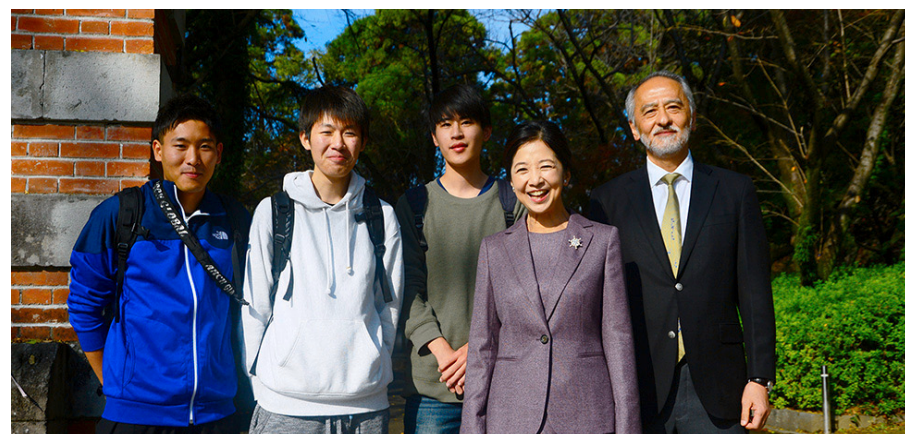
原田 医学部では、私が教えていた時には、熱がある患者さんが来た。どう考えますか、ということをするんです。問題意識を持つて原因は何なのか、どう診断をするかを考えさせます。

それをやると、初年度はいいんですが、2年目からはみんな先輩の答えを書くんです(笑)。ここをきちんと認識してやる学生とやらない学生では、それから先が違ってきます。

宮崎 この先、社会で生きていくための取り組み方の姿勢を学ぶのが大学かなと思うんです。大学で安直にやつていれば、先々の仕事も安直に接してしまうような気がして...

原田 知識を教えるのではなくて、知識をどう活かしていくかを教えるのが大学だと思います。

宮崎 講義の内容が面白いし、熱をもつて話されるから、つい学生としては、「そうなんだ」と前のめりになつていく。そして自分で調べると、ああ、こういうことかとわかる。私の尊敬する先生は、そ



／んなきつけをつくってくださいました。若い人に、伝える、教えるという使命感を持つていらつした。そういうことを、学生は感じますよね。それは大きかったと思います。

原田 やつぱり、よくやる学生とやらない学生がいて、こういう風に引張つていくかは先生方にとって難しい問題です。

宮崎 この10年くらい、大学が全然違うものになってきましたね。びつくりしています。

原田 昔みたいに、自由な気風というのが薄れてきていますね。大学ではア

／育つていない気がします。そうすると、大学そのものが高校のようになってしまつて。でも、大学を自由な雰囲気にする余裕が社会に無いですね。

／大学もまちも、若い人のゆりかごであつてほしい
—熊本大学にどういう大学になつて—

／ほいですが。あるいは、どんな学生さんが育つてほしいですか？

宮崎 突出した人、いろんな方向に活躍する人が出てきてもいいのではないかと思います。私が働いている業界にも、もつと後輩が来てくれたらいいかな。

でも、熊大は、特に文系は昔から堅実です。地元で就職を目指すような。それはそれでありますが、そうじゃない方向もあつていいのかな。

—宮崎さんご自身が熊本から飛び立つたことを、それでよかったと思うとおっしゃっていました。

宮崎 好きなことを仕事につなげることができた。自分で気づいていなかった好きなことに出会えた。大学時代は、迷つたり、先生と出会うたり、ゼミの仲間と話したりする中から、チャンスをつかむ気持ちを育むことができた。

牧歌的な学生時代でした。毎朝6kmを、自転車です。通っていました。当時は、立田山のふもとに農林省の保全林があり、探検！なんて言つて散歩したり。木イチゴを摘んで食べたり。大学生のときにしか味わえなかったのんびりした時間を日常的に過ごせました。他愛もないことをどうしようか、あれはどうか、と考える、その時間が持てたことがよかったなと思います。

それに、古くからの学生街ですから、まち全体が熊大生を見守つてくれる。雰囲気がありました。それは、今もあると思います。そこで自由な時間が過ごせるのは、今考えてもぜいたくだった



／アルバイトに精を出して社会勉強をする人もいていい。あるいは、自分の目標に向かってコツコツ勉強する人がいても

／いい。今の問題は、レールを敷いて、そこに学生みんなを無理やりおこうとすること。そのために、均一な学生しか

／と思います。若い人のゆりかごみたいなまち。自分のことも将来のことでも不安な学生時代を見守つてくれているようなまち。そして大学のキャンパス。それはきつと今も変わらないんじゃないでしょうか。不安な時間を、学生二人ひとりだけがきながら過ごす場所。もしかししたらそこに大きなチャンスが巡ってくるかもしれない場所、そういう場所です。あつてほしいですね。

原田 僕は本荘キャンパスで学びましたが、黒髪キャンパスにはよく遊びに来ました。やつぱり五高記念館がすばらしい。勉強するのにいい環境。アメリカやヨーロッパの大学には昔の建物がよく残っています。新しく立て直して大学の雰囲気はなくしてしまう場合もある。でも、熊大は五高記念館をぜひ残さないといけないと考えています。そして、周りにもつと木を植えたいと考えています。

宮崎 キャンパスは保守的でもいいんです。守るべきものは守つていきたいです。

原田 宮崎さんがおっしゃったような雰囲気は残すべきだと思つています。ただ、宮崎さんの学生時代のように、今の学生にそういう余裕があるかどうかは別問題。その余裕を持つような大学生がいる、そういう時代がまた来ると思ふんです。その時のために、熊大の雰囲気を残す。五高記念館をシンボルとして、学生の勉強のよりどころとして、保存する必要があります。と考えています。



復旧工事中の五高記念館の中を特別に見学していただきました。